

桜がきれいですね。花冷えの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。この時期散歩をすると私はクシャミ、鼻水、目がかゆくてたまりません。先月より軽症のお子さまの「お薬のみ」のご予約を開始しました。ご両親の花粉症のお薬はこれまで同様予約なしで処方しておりますのでどうぞご利用ください。院長 池澤滋

感染症情報 2/20~3/26	前回	今回
アデノウイルス	4	2
溶連菌感染症	2	6
感染性胃腸炎	90	52
水痘（水ぼうそう）	3	3
手足口病	1	0
RSウイルス	27	10
突発性発疹	7	11
りんご病	2	0
ヘルパンギーナ	3	18
キャンピロバクター	1	0
ヒトメタニュー	4	10
インフルエンザA	0	89
おたふく風邪	2	0



住所:合志市野々島 2461
(ユーパレス弁天 北側)
TEL:096-242-6633
診療時間:9:00~14:00/18:00
休日:木曜・土曜午後・日曜祝
URL:<http://www.ikezawaorg/>



実話
「ポジティブすぎる母」
先日、足の小指をぶつけ、骨折しました。小指が親指のように腫れたって、前回きな母を演じます。

4コマまんが
作・絵
ちえこ&もみこ

マスク美人卒業

3月13日、とうとうマスクが個人の自由に！たまたま私は13日に飛行機に乗り東北のホテルに宿泊したが本当に久しぶりのマスクなし行動。ホテルの朝食バイキングはもう手袋なし！レタスの舌を青い目の外国人から直接パスされ戸惑うワタシ...この3年間で身についた清潔動作の習慣はいつまで残り続けるだろう。



満員電車の中、つい大きなあくびをして娘から注意を受ける(涙)...これまではマスクの下で、あくびをしてもノーメイクでも、肌が荒れようと全動じなかった。この3年間で私が得たものは、一言でいえば「緊張感のなさ」それはこの人生の中で決して「良い時代」とは言えない。子ども達にとってはどんな影響があるのだろう。

思えば、長い歴史上、人類はほとんどマスクなしで生きてきた。消毒していない手で握手して、肩を叩き合い喜び抱き合った青春時代。時には手洗いをせずに何かをつまみ食いし、おしゃべりで盛り上がり友人の唾液が目飛び込んで「ぎゃー」と騒ぐこともあった。笑いあってじゃれ合って私は輝く時を過ごした。専門家は「コロナ禍における厳密な感染対策はウイルスを遠ざける一方、子ども達が本来の年齢に免疫を獲得できない状況をもたらした」と指摘。コロナの流行抑制で衛生対策の緩みも生じる中「免疫の貯金が十分でない子ども達の間で、想定外の感染症が広がりかねない状況が生まれている」という声がある。新型コロナで厳しいロックダウンをしてきたので、子ども達は小児期によくある感染症にさらされてこなかった可能性がある。



このコロナ禍がもたらした影響はこれから解明されることだが、早く子ども達に笑顔溢れる社会が戻ることを願うばかりである。



その一方で「マスクを外したくない」人も多いという。マスク解除後のある意識調査では男女ともに「人前で素顔を見せることにためらいを感じる」という。これまで対人場面での緊張や外見への不安をうすうす持っていた人がコロナ禍でマスクの心地よさに慣れ、かつて以上に「実際の自分」「本当の自分」を見せることが怖くなってしまっている。それは「マスク美人」というワードに非常によく表れているように思う。

TVの街頭インタビューで男性が『知り合いがマスクを外した時「こんな顔だったんだー」って思うことがあるから、自分もそう思われたくない』とマスクを外したくない理由を語っていた。こんな顔だってどんな顔だっていいじゃん！「マスク美人」を卒業し内側から出る美しさ、そして「本当の自分」をぶっちゃける自由な心を求めたい！...と思う私は、まず上品なあくびの練習でもしよーつと(笑)

文責 池澤千恵子